



## 成蹊大学「体育会 OBOG 連合会」(通称：吉祥けやき会)が発足



2023年11月5日(日)成蹊大学6号館において森学長、伊藤学生部長のご列席を頂き、「体育会 OBOG 会長連絡協議会」の総会が開催され、連絡協議会から「体育会 OBOG 連合会」への移行が承認されました。「連絡協議会」は、体育会の発展に繋がる有益な支援活動の実施を目的として、OBOG 会有志が発起人となり、2014年4月に創設されました。

これまでの連絡協議会の活動は、約40団体のOBOG会の実態把握、会報の定期発行や総会の開催等によるOBOG会相互の情報の共有化と関係の構築等を進めるとともに、大学学生部との連携を強化し、体育会の活動に関する大学の方針をタイムリーに各OBOG会へ情報提供することや、学生部との共催による安全管理セミナーを実施する等実効性のある活動に繋げてきました。



更に、今年の4月に成蹊大学は、大学スポーツ協会 (UNIVAS) に加盟し、体育会の更なる発展と安全で安心な環境

の構築を目指しており、各運動部の OBOG 指導者の安全管理能力の向上は「体育会 OBOG 連合会」の重要な課題となっています。

従って、これまでは世話人が中心となって進めてきた組織を、より多くの OBOG 会の協力の下で運営する組織に改めることが必須であると考え、今般、「成蹊大学体育会 OBOG 連合会」への移行を提案した次第であり、総会においてその会則や理事の選任等が承認されました。総会終了後、大学10号館において、江川学園長、森学長、伊藤学生部長、藤野管財部長、三嶋学園常務理事、武藤成蹊会副会長のご参加を頂き、盛大に懇親会が開催されました。



寄稿 成蹊大学 体育会 OBOG 連合会 (吉祥けやき会) 理事 御厨 雅宏 (69工機卒)

## 学生部からの報告 **UNIVAS SSCの取得**

本学は2023年4月からUNIVAS (大学スポーツ協会) に加盟しました。この加盟により、学生部が取り組んでいる課外活動団体の安心安全な活動環境の構築に大きな進展がありました。具体的には、「医療従事者配置助成制度」と「UNIVAS SSC 認証」が挙げられます。

「医療従事者配置助成制度」は、UNIVAS が50万円まで負担し、本学主催の試合への医療従事者配置にかかる費用をサポートしてくれます。これにより、コンタクトスポーツを中心とする競技の団体は安全性が向上し、経済的な負担も軽減されます。

また、「UNIVAS SSC 認証」を8月に取得し、外部の公的機関から本学の安心安全対策が高く評価されました。この認証により、指導者には1名あたり1億円までの損害賠償責任の補償が付き、指導者が負担を負う事故があっても大学側がサポートできるようになりました。

次なる課題として、昨今の大学における体育会運動部での不祥事が相次いでいる状況を考慮し、どのようにガバナンス体制を強化していくかが挙げられます。各団体の自主性を損なわないように心掛けつつ、UNIVAS や

OB・OG 連合会の皆様のご協力をいただきながら最適な体制を検討していく予定です。

来年も引き続き、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学生支援事務室 担当課長 谷口敬太



## アーチェリークラブのインカレ出場報告

9月1～3日 京都市白梅スポーツクラブで行われた『第35回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会』に法学部政治学科4年 隅田郡(第63代主将)が出場しました。

また、9月22～24日には、夢の島公園アーチェリー場にて『第61回全日本学生アーチェリー個人選手権大会』が開催され、経済学部経済数理学科4年 高橋綾(第63代女子リーダー)が

昨年に続き2年連続で出場しました。高橋は決勝ラウンドでナショナルチームメンバーを破る大金星を上げました。

本人達からのご報告させていただきます。



### [隅田郡報告]

関東では山の中で行われる場合が多いフィールドアーチェリーですが、大会コースは山のコースに加え、川のコースも体験できました。自己新記録を出す等、ほどよい緊張感を持って取り組みました。

結果は予選ラウンド男子54名中28位となり、残念ながら決勝ラウンドには進めませんでした。しかし、初めての全国大会において自分の実力を出し切ることができ良かったと感じています。

### [高橋綾報告]

昨年のインカレは大阪の緑地公園で行なわれました。初めて1人で試合に参加することに孤独を感じていましたが、開会の挨拶では我がクラブの先輩であり、全日本アーチェリー連盟会長であった安倍晋三元首相を悼むお話があり、後輩としてこの場に立つことができ良かったと感じました。

今年は予選ラウンドを108名中63位で勝ち抜き、トーナメント戦の決勝ラウンドでは一回戦で予選ラウンド2位の日本代表選手と戦いシュート オフ(同点決勝の一射勝負)で勝つことができました。

しかし、二回戦で敗退し、17位という結果になりました。

昨年の95位に比べると成長を感じますが、惜しい場面も多かったため、今後の大会ではこの反省を生かした試合にしたいと思います。

2023年は個人戦のみならず4月に行われたリーグ戦(団体戦)においても、男子2部1位、女子1部堅持する結果を残し、実力をしっかりと出す戦いができていると感じます。

寄稿 アーチェリークラブ OB・OG 会副理事長 中田 光俊(75 経卒)



## 卓球部 OB・OG 会（蹊友会）からの**四大戦**活動報告



体育会卓球部のOB・OG会である「蹊友会」から報告致します。皆様のクラブでも他校との定期戦等の催しはあると思います。我々卓球部では、四大学〈学習院・成城・武蔵・成蹊の四大学です〉のOB・OGによる四大戦を20数年に亘り続けています。（コロナ期間は3年間ほど開催中止でした）

先日（本年10月14日）、に成蹊大学の卓球場で約100名程（お手伝いの現役学生を含め）の関係者が一堂に会しました。各校の出席人数がまちまちなのと出場者どうしの懇親も兼ねて、各校のOB・OGが入り混じった形のダブルスによる団体戦を楽しみました。

その後の懇親会（於 学生会館）も成蹊OB・OG会の市村会長の挨拶に始まり、各校の校歌斉唱に至るプログラムは大いに盛り上がりました。

当初は、「現役だけでなく、OB・OGも卓球をやろう」という単純な考えで始まったこの催しです。しかしながら、発足から20余年に及ぶ長い間に「OB・OGの中でも、卓球を続けている方と離れてしまった方との間に意識の差異があり、現役の中でも、四大戦の捉え方に違いがある。」等の課題があることがわかってきました。そんな中で、「とにかくこのOB・OGの催しを続けていこう」という意見で一致し、散会しました。



寄稿 卓球部 OB・OG 大道 正尚（81 経卒）

## 体育会自動車部**第69回 OB 総会**からの活動報告



令和5年7月1日（土）体育会自動車部第69回OB総会を大学10号館12階ホールにて開催いたしました。

喫緊の課題、部車購入資金援助問題を抱えコロナウイルス5類移行となり早速OB会開催となりました。

2か月足らずでの緊急開催にもかかわらず53年次（57卒）森田先輩、安田先輩をはじめとしてOB, OG 29名の参加。新入生を含め現役部員18名の参加、総勢47名での開催となりました。

物故者（前下川会長様他）への黙祷をささげて開

会。会長挨拶、幹事会活動報告、会計報告（部車購入資金援助の承認を含む）現役部活動報告、現役部員紹介、質疑応答とスムーズに議事終了する事ができました。

森田先輩の挨拶と安田先輩の乾杯にて懇親会が始まりOB, OGの4年ぶりの近況報告やら、現役の試合の問題、整備の問題、資金の問題など和気あいあいと話し合いました。現役部員、OB, OGの安全運転を再確認しました。

2024年は自動車部OB会創立満70周年を迎えます。記念式典は参加100名目標に頑張りましょう。

同期の皆様に声掛けをお願いいたします。幹事会への叱咤激励お願い申し上げます。

寄稿 自動車部 OB 会 会長 伊藤 裕之（68 政経卒）



## 蹴球部からの2023年度活動報告



昨年度「関東3部昇格」が出来なかった反省を踏まえ、2023年シーズンは「関東3部に昇格」をスローガンに部員全員が戦うことを誓い1月より本格始動しました。

前年度の反省からフィジカル、有酸素のトレーニングを約1か月実施し基礎体力の強化に注力、公式戦としては3月のアミノバイタル予選でトーナメントを勝ち進み、6月に関東3部の専修大学と本選を戦ったものの、力及ばず敗戦しましたがリーグ戦を戦う上でいい経験を積むことができました。さて、本年度のリーグ戦の結果ですが、東京都リーグ1部で12チーム中4位に終わり、3位までが関東3部に昇格する

権利を得て地域リーグと関東3部に昇格するための関東大会に駒を進めることができる中、またしてもあと1歩及ばず、2024年度も東京都リーグ1部で戦うこととなりました。



この結果を踏まえ来期にむけて新チームは始動しており、次年度の東京都トーナメント(天皇杯、東京都大学の部予選)は決勝まで勝ち進み準優勝となったものの「関東大学サッカーの聖地」である西が丘で戦うことができたことは次年度に向けていいスタートが切れたと思っております。

我が蹴球部は、本年度の反省を糧に今度こそ関東大学3部リーグへの参入を果たし、スポーツ推薦のない大学のトップとして結果を出したい

と思っております。

最後に、OBと致しましても目標達成にむけた支援、そして現役は戦力強化を図り、必ずや関東リーグに昇格できるようOB、現役一丸となって取り組む所存であります。



寄稿 蹴球部OB会 監督 宮下 尚磨 (85経卒)

## ライフセービング部からの活動報告



コロナ禍がようやく落ち着きを見せ、人々の野外活動の活性化も感じられるこの頃です。一方、自然のレジャー中の事故も報道を通して目にすることもあります。

我々成蹊大学ライフセービング部は公益財団法人日本ライフセービング協会の認定する資格を取得し、夏期の海水浴場へ赴き、溺水事故を未然に防ぐために活動しています。

学生達は夏期の活動を充実としたものとするために、海での機材を使用

したトレーニング、陸上での基礎体力練習、最新の救命技術の収集など、年間を通じて行っています。

ライフセービング活動の特徴は、学生の時期に留まらず、社会人となっても続けている者も少なくないことです。



家族と共に海に訪れ、ゴミ拾い（海の環境を守ることも立派な活動です）を積極的にしたり、自分が活動した海の近くに移住する者、インストラクターとして、協会のアカデミー部門に属したり、国際部門の理事として活躍する者、人命を守る仕事（消防、警察、海上保安庁など）に就く者らがOBOG会にあります。

3年後には成蹊大学ライフセービング部（サークル活動期間中も含めて）は40周年を迎えます。笑顔で祝いながら、大学や海のことを皆で会話し、集うことを楽しみにしています。

寄稿 ライフセービングOBOG会 会長 堀内 恒治（93法卒）

## ラクロス部 2023シーズンを終えて



男女ラクロス部は11月に今シーズンの公式戦全試合の日程を終了しました。

男子は2部Aブロックで3勝1敗1分の成績で3位。圧倒的に攻めながら引き分けに終わった昨年1部の横浜国大戦の結果が響き、勝ち点1差で残念ながら2位までに与えられる1部入替戦への出場権獲得はなりませんでした。

女子は1部Bブロック2勝3敗で4位をキープ。1部残留を果たしました。明治や慶応など女子だけで100人を超える部員を抱える大学を相手に善戦しました。

ラクロスは**2028年のオリンピックロサンゼルス大会での新たな競技種目に採択**されました。日本のラクロスは男子が昨年のワールドゲームス世界大会で3位、女子も世界大会で5位と共にメダル圏内にあります。成蹊OBOGには現日本代表・候補選手も複数在籍しており、年齢的にもこれから現役学生プレーヤーが今後代表に選出される可能性も十分あります。OBOG会としても引き続き学生をサポートしてまいります。



寄稿 ラクロス部OB会 会長 山本 壮一郎（93経卒）

## 弓道部からの活動報告 **NEW!!**



体育会弓道部の近年の活動についてご報告いたします。

2020年からの新型コロナウイルスの影響により、従来開催されていた行事や合宿が中止を余儀なくされました。その後もコロナ禍で制限のある状況が続きましたが2020年と2021年は学校内で強化練習を行い、リーグ戦、新人戦に備えました。2022年と2023年は新型コロナウイルスによる制限も少なく、多くの行事を再開することができました。数年ぶりのOB総会も開催することができ、OB、OG方と現役の関係性を再び深めていきたいと感じました。2023年のリーグ戦や新人戦では、部員一丸となって取り組みましたが、残念ながら期待したような成果は得られませんでした。

また、全日本学生弓道選手権大会と全関東学生弓道選手権大会にも出場しました。全関東学生弓道選手権大会において、一名の本選出場者が生まれました。来年度はさらなる努力を積み重ね、OB、OGの皆様にご安心いただけるような成績を目指します。体育会弓道部への継続的なご支援と応援を心よりお願い申し上げます。

寄稿 体育会弓道部 主務 浅野右揮

## 陸上競技部から 第100回箱根駅伝予選会に出場して



10月14日、第100回箱根駅伝予選会が行われました。今年には昨年からの連続出場と共に、1952年の第28回大会の出場校として記念すべき第100回大会の予選会に出場できたことは陸上競技部としてとても嬉しいものでした。

箱根駅伝の予選会は、陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街～国営昭和記念公園のハーフマラソンのコースで競われます。今年には100回の記念大会ということで全国の大学に門戸が開かれ、応援が解禁されたこともあり、スタート地点はコロナ禍以前の大会よりも多くの母校を応援する人が詰めかけ、スマートフォンがつながり難い状態となる程でした。

成蹊大チームの応援にはご家族、OB・OGなど、30人近くの方が現場に応援に駆けつけました。成蹊大の応援団、チアリーダーによる応援参加もあり、大いに盛り上がりました。

今年のチームは昨年の登録メンバーが10名残っていましたが、怪我人が出てしまい出走は新たに標準記録を突破した1年生1名を加えた10名ぎりぎりでした。スタートして10km地点までは全員比較的順調でしたが、そこから足に不安があり練習不足の二人が大きくペースを落としゴールができないのではないかと心配する場面がありました。しかし全員粘りの走りで10名全員がゴールし、出場校57チーム中54位という記録を残すことができました。

レース後は応援に来てくださったご家族、OB・OG、学校関係者の皆様、部員全員で記念撮影をして終了となりました。多くの方のご支援、ご協力を感じる機会でした。



寄稿 陸上競技部OB会 幹事長 塚原 敦 (83工卒)

## 事務局から 連合会略称「吉祥けやき会」

新たに「体育会 OBOG 会長連絡協議会」から「体育会 OBOG 連合会」と移行することになりました。「連合会会則」のご説明をいたしました。会の通称を「吉祥けやき会」と命名しました。

「吉祥 (キョウウ)」とは、良い兆し、めでたいしるしと記されています。また「けやき」は学園のシンボルの校木でもあります。これからの連合会の門出として相応しいものと考えています。

正式名称と略称を適宜使い分け聞きなれた名称となるよう期待いたしております。

また この機会に連合会の「バッジ」を検討してまいります。ご協力をお願いいたします。

体育会 OBOG 連合会 理事 木村明彦

### Information 重要なお知らせ

#### ■お知らせ

□次号 SMAnews 37号 (1月～3月) は、3月25日頃発行予定です。

自薦他薦歓迎!! 自クラブの活動を PR 掲載希望のクラブは随意事務局へ申し込み下さい。

掲載責任者 木村明彦